

# 仙台自分づくり教育

— 社会を支える25歳を目指して



▲小学校での「たく生き」の授業。この日は、自分の良いところについて考え、表現しました



▶スチューデントシティ(仙台子ども体験プラザ)で働く体験をする小学生

特集①

仙台自分づくり教育の中核

## 人や社会との関わりを体験する「職業や将来設計の学習」

人や社会との関わりについて、実践を通して学びます。これらの学習は、地域の方や企業・団体などさまざまな方の協力の下、行われています。子どもたちは、社会全体で育てられています。

### 職場体験活動

中学生が市内の事業所等で3～5日間の職場体験活動を行います。毎年約9,000人の子どもたちが、約2,700カ所の事業所で体験。活動を通して、コミュニケーションの大切さや礼儀・マナーの大切さなどを学びます

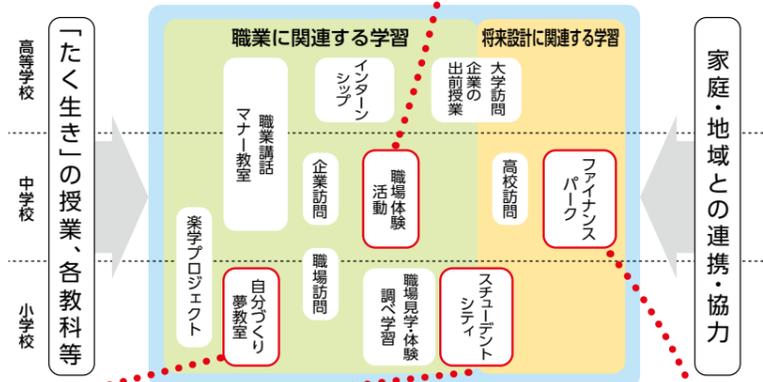


### 仙台自分づくり夢教室

仙台で活躍している社会人を小学校に招き、小学校時代のことや、今の職業との出会い、夢や目標を実現させるために大切な力について伝えます。子どもたちは、目標を持つことや今の学校生活を充実させることが大切であることを学びます



●仙台自分づくり教育の活動報告等を行う「仙台自分づくり教育アワード」を開催します。詳しくは19ページをご覧ください



## 「たくましく生きる力」を育成

### 仙台子ども体験プラザ

アエル8階に「街」を再現した、体験型学習施設です。

**スチューデントシティ**  
小学5・6年生が、ブースに再現された店舗・事業所で働く体験等を通して、社会と自分との関わり、経済の仕組み、お金・仕事とは何かなどを考えます

**ファイナンスパーク**  
中学生が、家族や収入など与えられた条件の中で、さまざまな商品やサービスの購入・契約などを体験し、より良い生活設計について学習します

未来の創り手となる力を育む「仙台自分づくり教育」

社会の急激な変化などにより、若年層の離職率や働く意思のない若者が増加するなど、若者の勤労観や職業観についての課題が指摘されています。また、生きる上で必要な「知恵や態度」を生活の中で身に付けることが難しくなっている現状や、子どもたちのコミュニケーション能力や自己肯定感などの低下が、学校教育の大きな課題となっています。

そこで本市では、平成18年度から、小・中・中等教育・高等学校、特別支援学校の児童生徒を対象に、仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」を推進。子どもたち一人一人が確かな学力を身に付けるとともに、人との関わりを大切にしながら、社会人として時代の変化を受け止め、未来の創り手となる力を育むことを目指します。

### 「たくましく生きる力」を育成

仙台自分づくり教育では、「かわる力」「うごく力」「みつめる力」「いかす力」「みとおす力」の5つの「たくましく生きる力」が、将来の社会的・職業的自立に向けて必要であるとしています(下図)。



この力を育成するために、「たくましく生きる力」育成プログラム(たく生き) 授業プラン集」を作成。5つの力の中で、各小・中学校が子どもたちの実態や発達段階、地域の特色などを踏まえ、育みたい能力や態度についてプランに沿って授業を行います。「わたしのいいところ」や「後ろ向きな考え方の乗り越え方」、「怒りのコントロール」など、プランは全部で101あります。

「たく生き」の授業や各教科等の学習に加え、家庭や地域との連携・協力により、「職業や将来設計の学習」を行っています。子どもたちが社会に出て経験を積み始めた25歳になったときに、社会を支えられる一員となるよう支援していきます。

### 職場体験活動で言葉の大切さを学びました



岩淵理子さん  
平成17年に職場体験活動(国のモデル事業として実施)に参加

中学2年生のときに、ラジオ放送局の「fmいずみ」で、5日間の職場体験活動を行いました。

当時私は人前で話すことが苦手だったため、あえて「話す」分野を選びました。fmいずみでは、4日間、毎日10分の番組を持ち、自分の言葉で話す機会を与えてもらいました。ラジオは言葉のみのため、どのように話せばうまく伝わるか考え、試行錯誤しながら言葉の大切さ、難しさを学びました。

現在、私は病院で薬剤師として働き、3年目になります。患者さんに薬の説明をするときは、なるべく専門用語を使うことなく分かりやすい言葉で、ゆっくりと、同じ目線で話すように心がけています。患者さんが笑顔になると、とてもうれしく、やりがいを感じます。

この特集に関するお問い合わせは、学びの連携推進室 ☎214・8438、FAX264・4437